

31日から赤磐の中学生5人「平和の尊さ」学んできます

AMD A職員（左）からスリランカの社会情勢などを聞く中学生ら＝赤磐市役所



る。

AMD Aは交流の輪をさらに広げようと、連携協定を結ぶ赤磐市に参加を打診。市が希望者を募ったところ、市内の中学生23人が手を挙げ、志望理由などから3年生の男女5人を選んだ。中学高校生のメンバー4人やAMD Aグループの菅波茂代表らとともに渡航。8日間の日程で、中部の都市ポロンナルワなどに滞在する。

現地の学校「ロイヤルセントラルカレッジ・ポロンナルワ」の寮で、同国の生徒たちと寝食を共にしながら、平和の構築などをテーマに意見を交換。サッカーなどのスポーツを楽しんだり、日本文化を紹介したりして、両国の親交を深める。

紛争跡残るスリランカ訪問

現地の子どもと交流

AMD A
活動同行

赤磐市の中学生5人が31日から、民族紛争の傷跡が今も残るインド洋の島国スリランカを訪れ、平和の尊さなどについて学ぶ。国際医療ボランティア・AMD Aグループ（岡山市）が同国で続ける復興支援活動に同行。現地の子どもたちと交流するなど、机上では習得が難しい国際感覚を身に付ける。（伊東圭一）

6月下旬に赤磐市役所で勉強会があり、AMD A職員がスリランカの社会情勢などを解説。「敵対していた民族間の不信感は今も根深い。偏見のない日本の若者が相互理解の仲立ちとなってほしい」と呼び掛けた。

スリランカは、民族対立によって1983年から医療支援活動を展開。15年からは「A年」から2009年までMD A中学高校生会」が同国を訪れ、相互理解が死亡したとされ、相互理解の大切さを伝える。「相互扶助」を理念とするAMD Aは03

桜が丘中3年新田光璃さん(14)は「言葉は十分に通じなくても笑顔を忘れず積極的に交流し、自分にできる国際貢献を」と話していた。